

330.4-Ka887



1200500736911

30.4

A88

清話會講演
第二輯
再建日本
經營者具體策の研究
勝田貞次



始



173

講演

清話會講演第二輯

再建日本

經營者具體策の研究

景氣研究所長

勝田貞次

清話會

330.4
K488

目次

戦後日本経済界の見透	一
テフレ政策と大内聲明	一七
絶對絶命の日本経済	一〇
外科手術か内科療法か	一四
悪性インフレの特質	一七
制度組織の問題	一九
競争と自治	二五
質疑—應答	二八
經營者の具體的對策	三八
マーケットなき生産	四〇
分業の破壊	四四
原料挑底	四五



都會凋落と農村繁榮	四九
光は何處に	五三
工藝品の輸出	五四
質疑 應答	五八
附	
社會は發展過程なり	六一

再建 日本經營者具體策の研究

景氣研究所長 勝 田 貞 次

(於東京都有樂町生命保險會館 清話會主催)
 昭和二十年十月卅一日 第二回十一月二日



○戦後日本經濟界の見透

目下一番必要なことは戦後の事業家がどういふ風に態度を決めてやつたらよいかといふ問題でこの演題の下に經營者の具體的な對策といふことになつたのでありますが、經營者の具體的な對策について論ずる前に、經濟界の一般の見透しといふものがどうしても必要になるのは當然であります。

973
346

そこで二つに分けまして今回は経済界の一般の見透しを中心として申上げまして、その範圍に於て十分皆様の御批判乃至は御質問に答へたいと思ひます。そしてこの次はそれを中心として然らば實際の方法がどういふ風に仕事をして行つたらよいか、かういふ風な問題について更にかういふ仕事がいけないとかあの仕事が良いとか、或は仕事をすることにしようか、かういふ風な仕事の仕合せをすればよいといふ風に聊か私共の考へてをります事を申上げたいと思つてをる次第であります。そこで今日は先づその半分の経済界の情勢につきまして私の考へてゐる所を申上げて見たいと思ふ次第であります。

経済界の見透しとしてどういふ風になつて行くかといふ風な前提の問題については、今日のやうに過渡期に於ては大きな問題が多々ありまして、さういふ風な問題を検討しなければならぬといふことは當然のことではありますが、大體に於て考へられる三つの問題は言ふまでもなく通貨の價値の問題が一つであります。その次は大きな意味に於ける制度、経済制度或は社會制度に於ける問題があると思ひます。米國なんかでは制度といふことが非常に大きな意味で取られてをりますが、日本人は封建主義的な制度ばかりを考へまして組織とか制度とかいふことを全然知らない、その證據には制度や組織を運用するのが拙い、個人々々は上手でも團體となると巧く行かないといふことはさういふ點に原因する所が多いと思ひます。制度の問題について研究しないと経済界の前途がどうな

るかといふことは分らないのであります。最後に具體的に通貨問題或は制度問題を通じまして日本の経済がどちらの方へ向つて行くものであるか、かういふ風なおさらひを致しまして本日の講演を終り御質問を承りたいと思ひます。次にはそれを土臺として經營者の具體的な態度について皆さんと共に研究をして行きたいかう思ふ次第であります。

第一に通貨價値の問題であります。これを世人は非常に誤解してをるやうでありまして、つまり一口にインフレーションといふ言葉が流布されてをるのであります。その結果茲に非常に間違ひを起して來る、やれインフレーションになるとかデフレーションになるといふことを言つてをりますが、各人が勝手に決めたところの定義に基いて幾ら議論したところで議論がはつきりするものではない、要するにインフレかデフレか知らぬけれども、結局問題は貨幣の問題である、

貨幣の價値の問題である、私はさう考へるのであります。そこで貨幣價値の問題が問題にならなければいけないのであつて、インフレーションがどうだのデフレーションがどうだのといふことを論ずること自體が間違つてをると私は考へるのであります。

貨幣の問題がなぜ大きな問題になつて來るかと言ひますと、何處の國に於ても貨幣問題は登場するのであります。制度の變革を意味するのでありますが、制度の變革は貨幣經濟に非常な影響を齎すものであります。これは影響する所が非常に多いのであります。或は貨幣の價値を通じて大きな

經濟組織の變化が起るわけでありませうから、貨幣價值の問題を先づ検討しなければならぬと思ひます。今日悪性インフレとかデフレとかさういふ風なむづかしいことは別として、日本に於て戰爭の結果どういふ變化が起つて來たかといふことを考へて見ますと、生産力の完全なる破壊といふことであります、これは誰も疑ふ人は一人もないと思ひます。同じ破壊でも一部分的な破壊と完全な破壊とは區別して考へなければならぬ、にも拘らず日本人は漫然と生産力が破壊されたのだとだけ考へてをる爲に、經濟界の状態を見透す場合に間違ひが起るのであります。例へば人が火傷をした場合、全身火傷をした場合と一部分火傷をした場合とはその人の生命に非常な影響があるのであります。全身火傷をすれば死んでしまふのであります、ところが一部分火傷をした場合は死なないのでありますから、全身火傷と一部分火傷との間には非常な違ひがあると思ひます。

今度の日本の戰爭による破壊は實に全身火傷にも匹敵すべき大きな火傷であらうと思ひます。それからその次に考へなければならぬことは、今度の戰爭の結果起つて來た問題は國家の債務が、つまり國の拵へた借金が個人の財産になつてをるといふことであります。私共が從來普通の意味に於ける公債といふのは、例へば政府が茲に煙草の專賣事業を起す場合に、專賣事業に關する公債を政府が募つて民間から借金をする、民間から一億圓の借金をすれば一方に一億圓だけの煙草を製造するだけの會社が出来るわけでありませう、それが我々の普通考へる公債であります、戰爭の

結果出來ました多くの公債は成程公債は發行されたけれども、その公債に償するだけの生産設備が出來たかと言ふと、何にも出來ない、生産設備が出來ないばかりぢやない、現在ある生産設備を働かして過度に酷使して出來た所の鐵砲でも何でも皆戰場に持つて行つてこれを破壊してしまつたのであります。

でありますから、つまり國家の債務が公債といふ形で個人に取つては財産になる。例へば私は一千萬圓の財産家である、公債を一千万圓持つてをると言へば個人に取つて財産であります、國家から見れば債務であります、而もその債務は生産力の増加の結果出來た債務ではなくて、寧ろ逆に破壊の現はれとしての債務であるから、從來と全くその公債の意味が違ふのであります。これを赤字公債と普通言ふのであります、財政學者は概して赤字公債は不生産的な公債でその利拂をするのには又更に公債を發行して利拂をしなければならぬから、赤字公債であると言ふのであります、もつと本質的に言へば普通の公債は生産力の増加を伴ふ公債であり、戰時中に出來た多くの公債は生産力の増加を伴はない公債である、寧ろ逆に破壊を意味するところの公債である、ですから他の言葉で言へば破壊が國民の財産になつたとかういふわけであります。

その一番好い例は特殊預金でありまして、それは生産力が増加して出來たのではなくて、家が焼けて特殊預金になつた、一方にある物はなくなつてしまつて、一方に非常に大きな破壊が行はれ

た、破壊が行はれて一方に於て個人の財産が出来た、こんな滑稽な話は恐らく我々は太平洋戦争に
なるまでは一寸考へられなかつたのでありますが、事實に於て破壊が財産になつてをるのでありま
す。

そこであらういふ場合に生産力が殆どなくて財産ばかり澤山ある、かういふ状態の下に於てこれを
捨て、置いたならば一體どういふ結果になるか、財産を持つてをる人がそれから上るところの利息
とか又財産を資金化して得たところのお金で以て自分の自由な物がどん／＼買へるといふ状態にあ
る場合には——公債にしたところで三分八厘の利息は確かに來るのであります。結局さういふ工合
に國民が財産を持つてをる限りは買ふ力が非常に澤山あることは事實であります。ところが買ふ力
が澤山あるけれども、國民が買ふところの物を造る力は戦前に比較して非常に減つて來たのであり
ます。随つてかういふ風な状態の下に於てこれを放任して置きますならば、生産は殆どなくて消費
だけが進行するといふことになり、造らないで使ふ、かういふ状態が進行するのであります。
丁度道樂息子が親爺の財産を引張り出して待合で放蕩して使ふと全然同じ立場に立つのでありま
す、その結果消費が多くなりまして消耗が高くなつて來るのであります。

最近新聞を見ますと榮養不良は自分の肉體を自分が消耗するのだと書いてありますが、全く日本
經濟全體が榮養不良をやりつゝあるやうなもので、日本の經濟は蝸みたいに自分の足を食つて生き

てをる、生産をしないで消費ばかりしてをる、その結果段々衰弱して來る。生産力が全然ないので
消費慾があるのでありますから、非常に僅かなものを皆が買ひ漁りますから、物價が下るべくして
下らない、段々物が少くなればなる程物の缺乏によつて物の値段が徐々に上る、かういふ結果にな
つて來ると思ひます。そこで特殊預金を持つたり、現金を持つたり、銀行預金を持つたり、公債社
債乃至は株券などを持つてをる人々がこれを現金にして物を買ふ時に、物價が百倍になればその買
ふ力は百分の一に少くなる、物價が高いことによつて買ふ力を減らして來る作用をするのでありま
す。今の日本の状態に於て生産力の一つしかないのに買ふ力が百倍あるとすれば物價を百倍にす
る、物價を百倍にすれば買ふ力と物とが一致して合ふわけであり、其處まで物價は上つて來て
然るべきであります、物資とそれを買ふ力が釣合ふ程度まで物は上るといふ運動、これを世人が
悪性インフレと言つてをるのぢやないかと思ひます。

○デフレ政策と大内聲明

ところがもう一つその場合にそんなに物價を上げて生産力と消費力とを一致させるよりもつと
手早くやらう、つまり大内教授が前に言はれたやうに結局人為的に戦時中に於て國家が作つたとこ

ろの不生産的なる總ての債務をモラトリアムか乃至は帳消しにしてしまへ、或は今後出るところの軍需關係の補償も止めてしまへ、かういふ風なことを徹底的にやればこれも亦それによつて間違つたところの富が切捨てられるのであります。間違つた富を切捨てることによつて生産と消費を一致する方法があるのであります。この方法は俗にデフレーションと言はれてるのであります。だから大内教授の意見はデフレーション政策である、現在の日本の生産力と消費力との不均衡を直す方法として第一に普通の自然放任すれば物價高で以て帳消しになるし、人爲的にやらうとすればデフレ政策になるのであります。

大内教授の言はれるやうなデフレ政策をやつたとするならば、恐らく大損害を蒙る者は銀行と保險會社と公債、社債、株券などを持つてをる個人でありまして、その結果言ふまでもなく金融恐慌が起るのであります。さうして銀行も潰れてしまふし、保險會社も駄目になつてしまつて、戦時中に國家と共同して生産力の伴はないところの債務を澤山製造した人々は全部それが帳消しになつて只になつてしまふ、さうすれば日本の富は、つまり國民の財産は百分の一にも減つてしまふわけがあります。ですから生産力と國民の財産との程度が一致しますから、それから後は決して道樂息子的な方法は講じられない、かういふことになつてそれで落着くといふのが大内教授の意見であります。大内教授のやうなことをやる場合はデフレ政策でありますから、惡性的なデフレーションが

起る、その結果は持つてをるところの財産の大概のものがなくなる、銀行預金も取れなくなるし、保險金は保險會社が倒れて取れなくなるし、株券も安くなる、自分の持つてをるところの物だけが辛うじて残る、それだつて物價が下落しますから十圓の物は二、三圓になる、財産はなくなつてしまふ、さうして日本の生産力の程度まで日本人が貧乏になつてしまふ、結局日本人の財産といふものは生産力の程度で圖ればこんな貧弱なものだといふ所へ持つて行つて追ひ込まれて来る、それをやれといふのが大内教授のデフレーション政策であります、かういふことをやることは結局惡性デフレーションを喚び起すのであります。

かういふ非常に澤山な間違つた富が出来たものを自由に放任して行くと物價の騰貴で惡性インフレになるし、放任しないでデフレ政策で間違つた富を切捨ててしまはうとするとその時に起つて来る問題は惡性デフレーションであります。

だから結局惡性デフレーションも惡性インフレレーションも結果に於ては何も違はない、その國民の財産とその國の生産力とを一致させる、かういふ運動をやるだけのことだらうと思ひます。それだから財産と生産力を一致させる、これが主としてやらなければならぬことであるし、やる場合には惡性デフレの方法を以てやるか、惡性インフレの方法を以てやるか、その間の違ひは全然ないのであります。

大内教授の間違は、先生の言ふやり方といふものは、その意味に於ても悪性インフレーションを否定する方法でもないのであります。何となれば結局大内教授の對策といふものは悪性インフレーションをやつたと同じ結果に持つて來るのでありますから、大内教授の言ふ事をやるから國民の財産の喪失を防げるならば別であります。大内教授の言ふ事をやつて見たところ、最後の結着する所は皆ルンペンになつてしまふといふことだけは事實でありますから、やつて貰ふことはどつちをやつて貰つても同じことであり、あれをインフレーション防止と銘を打つといふことは實に滑稽な氣がするのであります。インフレーション、デフレーションとそんな論議をするのは實に間抜けな話で、あのお化けに足があつたかないか、元々譯の分らぬものを掴まへてをるのでありますから議論にならぬ、あゝいふ議論に頭を悩まして頭が禿げたら詰らないことでもあります。

○ 絶對絶命の日本經濟

日本の經濟界の缺陷は何であるか、生産力がないのに財産ばかり無闇に澤山ある、財産が澤山あるから皆がぶら／＼して遊んでをる。近頃汽車が満員であるけれども、生産力を發揮してをる方はない、東京に着くと九時になつて疲れてをる、何もしない、一時間仕事をして又歸る、結局東

京まで來るのは生産力の増加の爲に來るのでなくて、月給を貰ふ爲に來るのである、つまりその月給もあぶく銭といふことになる、金持ルンペンといふことになる、金は持つてをるけれども、日本の經濟の生産力から見れば皆ルンペンである、ルンペンに金を持たして生産力がないのに使はしてをる、これが現在の状態であります。だからこの状態を何とかして一掃しやう、一掃しなければ益々消耗が酷くなつて、その消耗の結果物價は益々上つて悪性インフレになるし、一掃しようとするとうしても今言つた間違つた富を切捨てなければならぬ。大内教授の言ふやうなやり方に切捨てなければ悪性インフレになり、金融パニツクになり、銀行がなくなつて大破産が起つて國民の財産が少くなつて來て生産力まで一致する、どつちがよいかといふことは第二の問題であります。私の言はんと欲することはどつちかに必ずなるといふことでもあります。悪性インフレーションも防げ或は悪性デフレーションにならないやうな方法があるかと言ふと、不幸にして絶對にない、かう斷言せざるを得ないのであります。こんなに澤山間違つた富が出來てしまつた今日に於てはそれ以外のこととは考へられないのぢやないかと思ひます。だから時の問題であつて、悪性インフレか悪性デフレになる、なつた結果は我々の財産は百分の一か千分の一か知りませんが、生産力の程度まで我々の財産が減らされる、かういふ結果になることだけは事實であります。さうなつてでなければ生産力といふものを殖やさうとしても殖えない。人によると狡い事を考へてよい加減にやつて置いた

らよいぢやないか、悪性インフレーションにもならずデフレーションにもならず、間違つた富は其の儘欄にでも上げて置いて、これから新規時直して生産力を殖やしたらよいぢやないか、生産力が過ぎて財産が多いといふのがいけないといふなら、生産力をどん／＼財産の程度まで殖やして行つたらよいぢやないか、さうすると生産力を殖やすことに於て財産と生産力とびんと合へば悪性インフレにもならぬし、悪性デフレにもならぬで都合が好いぢやないか、何を君變なことを言ふかと言ふが、それは實際に於て出来ない、それは出来るかと考へる人は神憑りの人であつて、合理的に考へたら出来つこない、何となれば今日生産力が殆どないのに消費力がかり澤山あるといふかういふ條件が我々に與へられてをる、隨て消費力から見ると物資が少いといふ状態である、その状態に於て生産をやらうといふ場合は第一必ず起つて来る問題は物が足りないといふことである、物が足りないのに生産をしようといふことになればどうしても原價が割高になつて来る、生産費が高くなつて来る、今日労働者を雇ふにしても直ぐお米三食分くつ付けて、金だけで解決しないで物がくつ付いて来る、ですからその無い物を要求しなければ生産は出来ないものであるから、隨て無い物を無理に掻き集めてやる爲に生産費が高くなる、それは米であらうと工業原料であらうとを問はず何れにしても非常に高いものになる、萬一かういふものを外國から買つて来るからよいといふことを言ひますが、恐らく外國で買つて来る原價は相當高いものだらうと思ひます。原價の計算は日本人は何も

しないで外國から買ひさへすればと言ふけれども、ない物を無理に使つて生産するのでありますから、生産原價が非常に高く付くといふことだけは當然考へられる事實であります。ところがその高い生産原價を使つて物を造つて見たところで國民の大半といふものは賣り食ひをやつてをるのでありますから、購買力はあつても成べく使はないやうにしてをる、戦時中は新しく財産が殖えたからよいけれども、今日は財産が殖えて来ないから與へられた財産を賣り食ひをしてをる、鍋が六十圓は高いから買はないやうにするし、造る方は無い物を造るのでありますから、生産原價が高い、引合はなくなる、これは何處の國に於てもかういふ工合に生産力の完全に破壊された生産不足の場合に於ては原價の割高といふことは必ず起つて来る現象であります、ですから原價割高の爲に生産力を殖やさうと思つても出来ない、ところが消費力が完全に生産力と一致してしまへば物に對する消費力は殆どないのでありますから、その場合には一致するから生産力を殖やせば、隨て買ふ力もないのですけれども、併し造る場合に原價が割高になつて来る、ある物をその時に買ふといふことになる、非常に安く買へる、隨て造る場合に安く造れるから原價割高といふ現象は解消するものであります。ですから悪性インフレーションか悪性デフレーションをやつてそれから後でないといふ原價割高といふことは解消しない、その爲に生産力の増加は阻まれる。それからもう一つインフレにもならず、デフレにもならず、この儘置いた場合に生産力が阻まれる原因は要するに隘路の發生

であります、なぜ隘路が発生するかと言ふと生産力と消費力が並行してをりませんと生産の活動は各方面に於て不圓滑を極めるのであります、中にはその結果失業が出来る、色々な問題が起つ隘路が凡ゆる方面に發生する、もしも皆さんが生産を眞面目にやられたら隘路に苦しむことは必至だろうと思ひます、その隘路の發生の爲に生産力を伸ばすことが出来ない、だから今日の儘で何も解決しないで置いて生産力を伸ばさうと幾ら努力しても生産力は伸びない、伸びないと言つて生産力を伸ばさないでちつとしてをれば消費力の爲に悪性インフレーションになるし、仕様がなから對策をしようといふので間違つた富の方を切捨てようとするれば悪性デフレーションが起つて來て、これ亦同じやうな結果を來す。かういふやうな三練の状態に今の日本の經濟の状態があるわけでありませぬ。

これが悪いと言つて見ても良いと言つて見ても結局さういふことになつてをるのだから仕様がなないのであります。

○外科手術か内科療法か

だから政府が今日問題にしなければならぬのは大内教授のやうに外科手術によるべきであるか、

内科的な方法でやるか、この違ひがあるのみであります。實は私は見透しの問題としてはどうも實際に於てどつちをやつてよいか分らぬのであります、見透しの問題としては外科手術といふものは口では言ふけれども、なか／＼行はれないと思ふのです。なぜ行はれないかと言ふと、大内先生は外科手術をやれと言ふ、私共も議論としては外科手術といふあんな酷い事はいかぬからモラトリアムで胡麻化してしまつてもよいと思ひますが、實際に於てその衝に當つてやる人が果してありや否やといふことであります、今度の議會が新しくなつて無産黨が非常な勢力を占めて無産黨から大臣が出て、先づ第一に國民の間違つた財産を切り捨て、しまへ、かういふ風な問題が起つてもこれをやり得るや否やの問題であります。それは今や日本は戦争に負けて何でも荒つぽいことならばやれる、かういふ風なお膳立は出來てをるけれども、いざとなるとこれは出來ない、なか／＼困難だと思ふ。なぜ困難かと言ふと、財産がなくなることは損することでありませぬから、自然になくなるのなら諦めも付くが、或る政治家が出て人爲的に財産切捨てるといふので切捨てるに五分の一になつたとすれば必ずその人は怨む、俺の財産が五分の一になつた、怪しからぬ野郎だといふわけで猛烈に怨みます、自然に悪性インフレーションになつてしまへば誰がやつたか分らないが、俺の財産が一夜の中に五分の一になつてしまつてこんなルンペンになつてしまつたといふので怨むだらうと思ふ、氣の弱い人は出來ませぬ、理論上に於てはかうやることはよいといふことは分ります

が、恐らくやれるかどうか、人間としてなか／＼出来ない、主義、主張と實際とはそこに違ふので、だからその點から言つて無産黨が天下を取つても私は無暗に悪性デフレーション政策は出来ないのぢやないかと思ふ、ところが大内教授の言ふやうにやると直ぐ怨まれる、さういふ事を考へると私は結局に於ては悪性インフレーションの方に味方する、どうも無産黨が出るとその傾向が多分にあるのぢやないかと思はれますが、結局悪性インフレーションか悪性デフレーションを演じなければ、私の財産がちよん切られるにあらざれば生産力増加には絶對に入られない、それまでは幾ら皆さんが逆さになつても仕事が出来ない、やつた人は赤字で損をしても一番早く没落するだけのことだから、没落したければおやりなさいといふことになるだらうと思ひます。その意味に於ては悪性インフレーションから早く脱却することが必要でせうけれども、なか／＼困難ぢやないかと思ひます。

今日の状態は第一次歐洲戦争後の状態と餘りによく似てをる、第一次歐洲戦争は一九一八年の十月に終つて間もなく日本と同じやうにデモクラシーが非常に叫ばれた、つまり民主主義が勃興した、一方ドイツに於ては共産主義が勃興した。

日本が現在置かれた状態が恰度それである、恐らくデモクラシーと共産主義は必ず相當喧嘩するだらうと思ふ。

○悪性インフレの特質

それから皆さんがよく私共にお聞きになつて私共も答へるのですが、これだけは皆さんが十分お考へにならないとインフレといふことの意味が徹底しないと思ふ、よく購買力がないから物の値段が下つてしまひはしないか、それでデフレーションになりはしないか、さういふことを言ふ人がありますが、インフレーションの特色は購買力がなくても物價が上るといふことであります。ドイツの場合に於てもさうでありまして、戦時中は確かに購買力によつて通貨が膨脹した結果物價が上つて来た、日本でもさうであります。今度の戦争中には通貨がどん／＼膨脹致しましたが、通貨が膨脹する程には物價が上つてゐなかつた、物價の騰貴は通貨の膨脹に追従したに過ぎないのであります。ところが戦争が済んでしまふと逆に成りまして、物價の騰貴が一番大きく起つて、通貨の膨脹は物價騰貴に追従することが出来なかつた、物價だけが上つた、これがドイツの戦後の本格的インフレの特色であつた。購買力がないのになぜ物價が上るのかと言ふと、買ふ者があらうがなからうが物がないから上るわけでありませう。戦時中は通貨の増發が高い原因をなしたが、戦後に於てはな

いといふことが根本原因をなす、なぜないかと言へば生産力が完全に破壊されてしまったこと、消費力が無暗に多い、なければ高いに決まつてをるのでありますから、ないといふことによつて原價が割高になる、これがインフレーションの非常な特色である、かういふのが性質の悪い物價高であります、購買力が殖えて物が上るといふのは性質の良い物價高であります。ドイツの戦後に於ける現はれは原價が割高になることによつて引上げられて上つたのではないのであります、ですからはつきり統計を示して戦時中のインフレは通貨の増加によつて來た、戦後のインフレは物の不足から來たといふことが書いてあるのであります。世人がよくインフレと言ふと通貨の膨脹だ、學者も盛に通貨膨脹論を振廻すけれども、通貨が膨脹するといふことは本格的インフレから言ふと問題ではないのであつて、本格的のインフレが起るのは三つの原因から起つて來る、一つは物が無い原因から來る、もう一つは例へば爲替關係で圓が安くなるとか弗が上つたとかいふ爲替關係から物價が高くなつて上る場合が一つ、もう一つの問題は通貨の不安心、通貨を持つてをるのは危険なんだといふ考へ方、通貨を信用しないといふ心理状態で物價が上る、この三つが悪性インフレの場合の原因をなすのであつて、通貨が膨脹したから物價が上るといふことはそれは全く機械論でありまして、現實に一致しないことでもあります。さういふ現實に一致しないところの理論を立てゝをるものでありますから、通貨を吸収しようとして焦るのであります、今後の日本に於ては通貨を吸収し

やうにも所得が殖えてないのでありますから、通貨の吸収の仕方はないといふことになるのであります。さういふ風な譯で結局私共は今の日本の通貨の面から見ると限りに於てはどうしても問題は通貨を本當に安定させなければ生産力が殖えない、現在でもさうです、例へば電氣コンロにしろ、鍋釜にしても今までないものだから鍋は百圓でも買ひたいといふけれども、鍋があるといふ値段がないといふ値段に變るから六十圓は高い、四十圓にして置けといふことになる、俺は六十圓にはなると思つて造つたけれども、四十圓にしか賣れないので損をした、これは通貨價値が不安定である爲に採算が困難になつて來る、かういふ問題も悪性インフレ、悪性デフレによつて貨幣價値の安定を圖らなければ一切仕事が出来ないといふことを意味すると思ひます。何れにしましても以上申しましたことによりまして日本の貨幣價値の問題が或る程度まで説明し得たのではないかと思ひます。

○ 制度組織の問題

次に制度の問題であります、制度とか組織とかいふ問題について日本人は非常に考へ方が足らなかつたと思ひます。それは日本人の制度、組織論といふものは主として封建主義的な制度組織しか頭にはなくて、それ以外の制度論といふものは分らないものですから、どうしても日本人

には制度といふ問題が分らぬといふことが言へると思ふ。だから日本でインスティテュートといふことを言つて見たところではつきりしない。

米國の軍隊が入つて来て上官に向つて敬禮しない、あれで組織が保てるものだらうか、日本人なんか敬禮してやるから制度組織になるといふ氣がきつと起るだらうと思ふ、あれできちんとやつてをる。

あれが日本の制度組織と向ふの制度組織とが違つてをるといふことを意味するのであります。

一體日本では昔はさうであります、明治の末からだん／＼さういふ傾向になつて昭和五年頃までなつたと思ふ、何處でもあの人は三井財閥の誰某、組織の誰某と來る、これが日本の非常な特色です、人間それ自體は尊敬しないで、何處其處の誰某でないと承知しない、そこが日本の封建制度の非常な特色で、つまり制度、組織が人間を支配してをる、これが日本の制度、組織の非常な大きな特色であります。米國の自由主義とか民主主義とかいふ制度はそれと全然正反對な制度であつて、人間が組織を支配するといふ制度であります、制度は手段である、目的物でない、かういふことであります。

ところが日本人は組織が親父で、人間が子供みたいに考へてをる、組織が一番母體で根本的な社會的な問題だといふ考へをいつでも持つてをるものらしいのであります。だから偉くなるといふこ

とは組織、制度で以て良い地位を占められるといふ考へになつてをる。米國では制度、組織は手段であつて、制度、組織にさういふ風な大きな威嚴を認めない。米國では組織制度はあるけれども、それは手段であつて、決して目的物ではない、そこに向ふの人を見ると人が偉くなつても怨まない、俺は何處其處のどういふ組織のインポータントな地位に坐つたから俺は偉いといふことにはならない、人を押し除けてでも喧嘩するといふやうな性質の悪い權力争鬭は向ふにはない、或は政治關係に於ては多少あるでせうが、根本的にはないので、それは制度とか組織に對する觀方が違つてをる。彼等は制度、組織を人生の根本的なものと見ないで、手段と見てをる、これは餘程の違ひだらうと思ふ。

人間が制度、組織を支配する、だから米國なんかに行くといふ處其處の誰某とは言ひません、誰某の組織と言ふ、例へば池田さんの三井と言ふ。日本では三井といふバックがあつて、池田といふ貧弱な奴でも偉くなつてをる、さういふのが日本の觀方である、だから日本人は組織を離れると空氣銃に撃たれた鳥みたいで動けはしません。向ふは組織を目的物にしてないから組織を離れてもよゝ、米國と日本では逆である。組織と制度との關係を全く考へて見なければならぬのであつて、組織制度が中心となるものが封建主義で、人間が組織制度を支配するものが民主主義、かう言つてよいのではないかと我々は考へてをるのであります。

例へば福澤諭吉先生が獨立自尊といふことを言はれて個人として偉くなる、個人として立派になるといふことを言つて獨立自尊といふことを言つたが、最近になると獨立自尊と全然正反對で組織を持たない者は駄目である。昔私は野村で以て調査をやつたところが調査が巧く行つたといふので有名になつて訪ねて来て、君の所はさぞかし立派な組織があるだらうといふ、女の子二人と自分だけと言ふとびつくりする、調査は人間がやるのであつて組織がやるのではない、ぼんくらがやつても立派な結論は生れつこない、だから駄目だといふので啖呵を切つたことがあります、有名な學者が時々訪ねて来て、組織がないと調査が出来ないと言ふ、この前戦時中などは調査機關を動員して調査研究動員本部といふものが出来た、それで僕の所も入れてくれ、入れてくれ、金が取れるから……、俺の方は組織がないから入れてやらない、さういふ考へが直ぐに起つて来る。この前も憲兵が俺の所に来てお前の所は女の子とお前だけだ、そんなものは存在を認めないから潰れてなくなれ、組織がないと駄目だといふ、へんちくりんな封建的な制度はない方がよい、大會社の人に限つて僕は三井銀行の誰某である、そんな顔をして坐つてをる、組織制度を作つたばかりで何も働かない、出来るまでは忙しいが、出来てしまつたら何もしない、日本では組織制度が出来るまでは忙しいが、出来てしまふと制度の陰に眠つて何もしない。

封建主義といふことはかういふことをやつて来た、徳川家康は人間を組織で動けないやうにし

てこれなら大丈夫だらう、他の者はべしやんこだ、その組織制度を今でも持ち込んで来て銀行會社でもやつてをるから日本の能率は上らない。縛つた途端に組織制度は機械的なものであつて、本當の生きた組織でないから駄目であります。

外國の組織制度はそれと逆であつて、人間が組織制度を使ふ、なぜさうなつてをるかといふと、誰でも組織にインポータントを置かないから組織を第二次的なものだと考へてをる、人間と人間の結合しか考へてない。だから組織は手段であるか目的であるかといふことをよく考へて見なければ封建主義か民主主義かといふことは組織論から言つても徹底し得ないことであります。

徳川家康のは人を束縛する伸ばさない組織である、伸ばさうといつてもそれは不可能なる問題であります。

○競争と自治

これを經濟の方面に限局して考へますと組織が目的でない、手段としての組織、つまり人間を使はないから人間が使ふところの組織は經濟的にはどういふ性格を持たなければならぬかといふと、二つのものによつて出来る、一つは競争といふことであります、他の一つは自治であり

ます。競争と自治といふ二つのものがない経済組織といふものは完全に人間を使ひ廻す機械的な組織であつて本當の組織ではない、競争といふことと自治、自分のことは責任を以てやる、この組織の下に於て考へられた組織は利潤制度といふことになつてをる、だから利潤主義は暴利を食るとか貪らぬとかいふことは別個の問題であつて、ただ皆が金を儲ける制度、利潤制度といふもの位自治といふことと競争といふことを巧く採入れたところの制度はないものだから、利潤制度といふ形に於て起つて来たのであります、この利潤制度に於ては能率といふものと各人の報酬といふものが非常に一致して来るのであります、能率と報酬といふことが一番良く利潤制度に於ては結び付くわけであります、利潤制度といふものは経済的な民主主義制度である、つまり本當の意味の手段としての組織であるといふことになるのであります。併しながら利潤制度は必ずしも自由に放任してをるのではないのであつて、本當の利潤制度として常にこれを合理化する必要が起つて来るのであります、その意味に於て統制といふものが考へられるのであつて、統制といふのは要するに利潤制度の合理化といふことであります。獨占が無暗に加はれば利潤主義はなくなる、獨占が加はれば自由主義が封ぜられてしまふし、又自治といふことがなくなつてしまふからトラストは良くないといふ考へがあると思ふ。例へばそれと同じやうに過當投資、無暗な思惑もこの場合には良くない。例へば米を無暗に買ひ占めるといふことは良くない。例を商業に

とればよい、米でも何でも自由販賣にしてしまへば米は結局買ふ者はないから六十圓のものが三十圓になるといふ野放しな自由論もあるがそれは考へものである、恐らく一寸利口な者は米の買占をする、猛烈に買ひ占めるに決まつてをるから百圓、二百圓、三百圓になつてしまつて下るところか全然正反對な方向に走つてしまふ、さういふことは利潤制度を濫用するのだから利潤制度の濫用はいかぬ、利潤制度を合理化するといふことは必要である。その意味に於て本當の統制が考へられなければならぬ。

それを日本に於ては戦時中に於て利潤制度そのものを一遍に壊してしまつた、利潤制度を壊すことを命令で全部やる、これは統制だといふことで間違へたことをやる、巧く行つた利潤制度を否定してしまつた所に自治も競争もなくなつて能率はがた落する。

経済組織に於ては少くとも競争と自治がなければ経済組織が成立たない、ところがそれを可能とするには利潤制度であるが故に利潤制度は絶対に必要である、その合理化は更に必要なものであつて、合理化を無視して野放しなことを考へるのはよくない。何れにしても今日問題となつてをるのは封建的な組織制度から本當の民主主義的な制度に變化せんとする情勢にあるわけでありすが、この變化が並々ならないむづかしいものであります。なぜむづかしいかと言ふと、封建的な制度といふものは制度を目的としてをる。ところが民主主義の制度に於ては制度が手段になる、目的を手

度に全く逆轉する。かういふ場合には單に一部の改造だけでは斷行することは出来ない。必ずかういふ根本的な改造は目的を手段にする。つまり親父を召使にするやうなもので、恰度讀賣新聞の争議みたいなものです。我々の一番良くないと思ふのは曖昧なことを曖昧に考へて曖昧然としてをるといふのが普通の人々であります。それではかういふ變化の多い時にはやつて行けないのであつて、徹底的に考へて曖昧な所を少しも残さないといふ風に考へなければ嘘だと思ふ。その意味に於て私は少くとも日本に間違つた富が澤山あるといふ事實は動かすべからざることである。一つは今までの一切の富のバランスが御破算されて清算される。新しく富のバランスが作られる、同時に人間と人間とのバランスが御破算されて新しく出来る。人間のバランスが御破算される運動が革命と言ふならば、富のバランスが御破算される運動をデフレ乃至はインフレと言つてもよいではないかと思ひます。

ですから何れにしてもバランスの御破算が日本の前途に横はる非常に大きな問題ではないか、さういふ風に考へるのであります。現在のバランスの儘では人間のバランスもさうでありますし、富のバランスもさうであります。この儘で行けば必ず行詰ります。手も足も出なくなる。現在ある二つの事實にあつては一つは分業關係が全く破壊されてをることでもあります。皆さんが或る一つの仕事をなすつても恐らく現在自分の僅かの手持品を消耗してしまへば手も足も出なくなる、どんな

商賣を始めても物が根本的にないものを持つだけでやるのですから、半年か一年もやればあとは氷付いてしまふ。一方は物が無いといふことと同時に、一方に分業のない所に仕事が出るわけはない、だから駄目である。それからもう一つは完全な破壊が行はれてをる、普通の關東大震災ならば外から物資を持つて來て何とか出来るけれども、べた一面に悪くなつてしまつた、何處から手をつけてよいか分らぬ。バランスだけは舊態依然として、富のバランスも昔のバランスであるし、人間のバランスも昔のバランスである。完全破壊と分業破壊が依然として存在してをつてバランスだけがある。だから必ず茲にバランスの大破壊が起つて來るだらうと思ふ。その結果恐らく相當大きな問題が澤山起つて來る。それを乗り越えて行くといふことを中心として我々の仕事をどういふ風にやつて行くべきであるか。かういふ風に考へなくてはこの大きな事變について我々が本當に前途巧く見透して行くといふことにならぬ。又日本を建直すといふことにはならぬと思ふのでありまして、今度の敗戦は成程一寸見ると大したことではないやうに思ひますけれども、經濟その他について見ると今度の敗戦程深刻な悪結果を國民に齎さんとしてをるものはないと思ひます。どの面を見てもぼんやりしてをると言ふけれども、これは何も好きでサポータージュしてをるのではないのであつて、どうにかうにも仕方がない、役人さんでもさうであるし、誰でも皆仕様がなからかういふ風な状態にをるといふことが來るべき大きなバランスの大變化を私達は暗示してをるものではない

ぬ、かういふ風に考へるのであります。

○質疑 應答

問 一寸伺ひます。只今お話大變有難うございました。私共大體同じ考へを持つてをるのでありますが、それについて比較的固定した物の裏付けのある農村の役割、それが今日の經濟動向にどういふ風な役割と變貌を持つて行くかといふことについて御教授を戴きたいと思ひます。

答 私は今でも考へてをる、今の農村が都會化する傾向を多分に日本あたりで帯びてをるわけでありませぬ。

それから恐らく東京なんかの大都會は非常な發展を示すかも知れませんが、中小都會の發展は非常に遅れて來るし、もつと農村が工業的な發展を示すべきであると思ふ。今の都會が米を高く賣つてをる、或は不作の爲に更に高くなるといふやうな傾向がある。米の問題が大きな問題でありませうけれども、結局何れにしてもかういふ風 時節には必ず農村が潤ひ、農村に金が澤山行くといふことが大きな次に來るべき社會情勢のバランスの變化を意味するものであつて、現在のやうに農村と都會と對立が起つてをると言ひますけれども、要するに都會とか農村とかいふバラン

スを御破算にして新しい農村、新しい都會に生れ變らうとしてをるのであります。さういふ風な意味に於ての農村は變革その他に非常に大きな役割を演じようとしてをるのであります。

問 大體封建思想の所得階級が農村に出掛けてをるといふことは現實の問題だと思ふのですが、都市と農村の對立はこれからの社會問題が大部分都會を中心起る、事業者が手を拱いてをる以外に方法がない。米の生産者である農村が經濟變革の線に沿ふ、やはりこれも都會と懸け離れて晏如たり得ぬと考へるのであります。さうすると農村の變革も同時に社會變革に對してどういふ役割を持つてをるか、さうしてそれは結局農村の指導者が現在考へてをり、上層部がその事について關心を持つてをると同じ線に動くかどうかといふことです。

答 今日農村が封建主義的な農村から機械化された農村に行くことだけは事實です。それですから農民といふものは所謂一種の資本主義農民に變化する、それは自作農だと思ひます。今までは小作農でせう。二男が都會に出て農民を勞働者にして上前を刎ねた、ところが小作制度が完全になくなる、さうして自作制度になる、自作制度が本當に徹底しますと農民が個々別々皆小さな資本家になります。さうすると彼は自分の畑を一反持つよりも五反持つ方がよい、一人で五反持つには機械化しなければならぬ、トラクターでやれば五反やれる、かういふ風にして農村が金を持

つと小さな資本家、農業資本家が出来る可能性は十分ある、農村が資本主義的になつて来ると従来の農村の性格が非常に變化して来る。これは都會の非常な變化を意味します。だからごらん下さい、農村は共産主義に反對してをります、一番震え上つてをる、都會の人は共産主義に賛成してをる、財産制度はどうでもよいと思つてをる、農村の人は財産制度が變になることを怖れてをる、農村は金持になつて資本家になつて都會はルンペンになつてをる。農村資本家になつてをる。その制度がかういふことになること自體が農村の封建性を一層強くして行くでせう、或る一つの大變化は農村にも起る。

革命といふと皆さんが暴動を豫想してちゃん／＼ばら／＼が行はれると思ふが、さういふものは大したものではない。革命の革命たる所以はさういふものではない。封建主義が資本主義になるその運動が革命です。變化を革命といふのだから單にちゃん／＼ばら／＼をやつて血を流すことが革命ではない、さういふ意味に於て農村が革命を辿るのは必至でせう。一寸した農會が一千萬圓以上の預金を持つてをる、その預金を何に利用するか、製粉會社を作るとか肥料會社を作るとか乃至は農村から出来たものを罐詰にするとか考へてをる。農村が小さな工業團體に段々出来上る傾向だけはあります。

問 勝田さんのお説は元々賛成なんです、農村の工業化といふことは今お話の通り必至だ、併し茲で一つ考へなければならぬことは、我々も農村關係です、智的には都會の人に敵はぬ、今度の衆議院議員選挙でも都會にをる衆議院議員は全部辭めさせてしまつて、農村に住んでをる人を出さぬかといふことが起つてをる、併しさうは出せぬからやはり農村工業化といふことに對して農民は大きな希望を持つてをりますが、果してさう行くか。政治力が都會に集中されて而も最近議會人が農村に對する反感は我々農民が考へる以上です。隨て農村の工業化は自然發達すべきものだけれども、これが手段、制度によつて逆行して行く惧れはないか、その問題についてどういふ風にお考へでありますか。

答 それはこの次にお話ししようと思つてとつて置いたのですが、必ず悪性のインフレ乃至は悪性のデフレーションが必要であり、變革が必至であるといふことになる一應都會の者はルンペンに還元されます。ルンペンになると大概農村に行ける者は行く、行けぬ者は自己勞働に還元する、あなたの言はれるやうな心配は解消される、今は宙ぶらりんだからあなた方には都會が威張る、都會と田舎との間のバランスを見ると都會が偉さうに見えるが、それはバランスされる、悪性インフレがあつて財産のなくなる場合には、都會の財産の方が響きます。勿論百姓の財産も減るで

せうけれども、主として都會の人間が持つてをる財産が掃蕩されると恐らく都會といふものが非常に虚脱されたものになつて来る。農村は物を現實に持つてをりますから、その物を工業化することは早い。東京のやうな政治の中心點は勿論或る程度確保されるでせうけれども、大體に於ての生産力の中心は都會から田舎に移る、

併し輕工業にしても世界的制覇を維持されない輕工業ならば田舎に行つた方が安くてよい。再び阪神間に大きな工場地帯が出来るといふことは絶対に考へられない。大きな工場も田舎に移動する、但し日本に重工業を起すことを許す、大紡績會社、大人絹會社を許せば別個の問題ですが、許さない意味に於てこれは必ず農村に還元されて行くことだけは必然的な傾向ですが……。

問 かういふ時代としまして次の選舉に立つ者はどういふ資格、條件を備へた者が立つべきだと思いますか。

答 僕はかういふ時には本當を言ふと代議士に立つのは馬鹿だと思ふ、立つても立たぬでも同じことになる、それは理窟を言へば日本の爲に一肌脱ぐといふ問題でせうが、根本の建直しが出来てゐないのだから、代議士に立つても何も出来ないのぢやないでせうか。だからかういふ人といふのではなくて、猛烈に破壊力を逞ましくする者が代議士になるのでせう、今までのものは破壊

するといふのでよいのぢやないですか。僕は極端な話ですけれども、さうすら思ひます。

問 さうすると保守的な分子の出る必要もあるわけでせうか。

答 保守的と言つてもどういふ保守か。

問 破壊に對する……。

答 餘り破壊すると安定しないと思ひます。農民だつて農村の機械化といふことについては大いに進歩的ではないかと思ひます。自作農になればどうしても自分が可愛いから必ず機械化を起します。失業は農村にもございます。機械化して十人使ふところを三人使ふ、都會から來た者は要らないといふことが行はれぬとも限らぬ。機械が入らぬといふことに問題がなませうか……。

問 但し現在の地主は非常に負擔が多く苦勞もあるし、小作人の方が却てよいといふ考へ方が蔓延してをるといふことを御参考までに……。

答 それは僕も知つてをります、問題がそんなものではないので、自然の大きな流れから見ても農民が好むと好まざるに拘らず小作主義から自作主義にならざるを得ない情勢にある。個々の農民が金が出来たからやり易いといふことは認めます。農村の保守的な氣持から言へば金は金でとつて置く、かういふ氣持はありますが、自作制度といふものは昔から大きな問題です。

問 もう一つ伺ひます。今度は反對の立場で、一應先生の今仰しやる話に分る、知識階級として事業家としても肯定したいし、その線で進むことを今日の立場としては最も練つてをるのですが、併し日本の現實の姿を見るとそれも希望的觀測で、恐らく今の悪い缺陷の方だけ、例へば生産がストップして馬鹿顔して消費だけをやつて生産をしないといふ跛行状態、これだけは全くその通りになると思ひますが、破壊の方面については日本人の性格が積極的に動くといふことでなしに、先達の新聞のやうに段々に榮養失調を來して遂に全部が無力になつてしまふ。これが一番我々日本人として怖いことなんです、又産業人としても一番怖れてをります。

現實の問題とすれば食の裏付けもなければ工員を確保することも出来ぬ。工員自身も工場で二十圓、三十圓の手間を貰ふよりも、無理して切符買つて一背負ひ背負つて來れば百圓になるとい

ふやうな空氣が非常に強い、取敢ず通勤職工なんか全部さういふ状態であります。それで悪性インフレーションはこれも仕方がないとして國民的自覺といふものがなくなる、といふことを一番怖れるのですが、經濟的方面からの觀點で先生の瀧蓄で必ずその心配はない。破壊して立派に國が立直るといふ信念を以て御垂示戴けるかどうか、一寸伺つて見たいと思ひます。

答 その問題はこの次申上げようと思ふので残してあるのでそれを申上げると話がなくなるので、私の言ふのは前提條件を申上げて併しどうなるのだといふことなんです、言ふと皆が來なくなる、併しかういふことなんです。

つまりあなたの言ふやうに悪性インフレで行けば確かに自然衰弱です。衰弱するから力がない、榮養失調です、榮養不良の疾患と全く同じ状態になつてしまふ。日本の經濟自體が餓死線上を漂つてをると見てよいと思ふ。日本人の經濟は餓死してしまつて日本民族よりも巧く行かなくなる、といふ問題が必ず起つて來ると思ふ。僕等は事業家に向つて當分仕事をしてはいけないと言ふと、我々が仕事をしなければ誰が仕事をするか、日本は皆生産力がなくなつたら日干になつてしまふから絶對反對だといふ人はあるけれども、僕は起して見ても結局駄目だといふことを言ふが、例へばかういふことが言へるので。悪性インフレは自然衰弱を自ら療治する方法です、つまり自

然衰弱でやり切れぬといふ状態が起つてしまつて悪性インフレがストップしてしまふ。それが大きな作用をなしてをる。ドイツの論者は悪性インフレは良いか悪いかといふ問題に對して、不思議にも三割の人々は悪性インフレは實に有效なる方法であると説明してをる。もしもドイツに悪性インフレがなかつたならば亡びてしまふだらう、悪性インフレがあつたから助かつた、ドイツは悪性インフレを意識的に起したといふ、怪しからぬと聯合國の者は言つたことがある。ですからあなた方が一寸見ると日本は自然に衰弱してしまつて亡びてしまふ、さういふことは悪性インフレを起す力があればないです。悪性インフレを起す力すらもない場合は必ず起る。

問 力はありますか。

答 力は必ずあると思ひます。あるといふ一つの理由は兎に角日本には完全破壊が行はれた、ですから農村問題といふものはこの際必要なんです。原始化といふことを言ふ、原始化といふのは總ての經濟状態は原始状態に還れといふのです。これは還らなければ衰弱して日本の國民は亡びてなくなります、だから僕はその必然性を申上げたい爲にそれだけを置いて置いた。ところがかういふ状態になりますと必ず原始化する。例へばロビンソンクルーソーが島へ漂流した途端に紅茶を飲みたいとか言つても駄目である、ダンスしたいといつたやうなものである。それでは駄目な

んだから自然にそんなものは捨て、しまつて、お前は畑を耕せ、お前は魚を捕れといふ風に原始的産業からやり直せ、今後は原始産業といふものから始まらなければ日本は駄目である。原始産業を始めたら悪性インフレである、悪性インフレをしないでこの儘だと農村は原始産業をやりません。敗戦日本の行くべき道は一應原始産業に還元されるべき大きな必然性があるわけです。さうしてその後には本當に我々の行くべき道を確定して行きたいと思ふのです。

問 銀座 闇価格は上りますか下りますか。

答 日用品といふものは戦時中はないといふことを標準にして上りましたから、今度は多少出て來るとまだ下るでせう、併しそれは一應下つて、下りきりではない、又上つて來ますね、といふのは一應出來ると又あと出來ませんから……、それは今僕等の考へてをるやうな考へ方を以てすればです、一般の人はさうは考へない、今後順調に鍋や釜も出來ると思ふから高いで買はない、終ひには全部が引込んでしまふ。利口な奴は暫く作つたその儘倉の中に放り込んで置いて、銀座街頭から焼爐もなくなれば皆なくなる、買ふ者は困るから今度は又欲しいと云つて高くなる、今度は又賣つてやるといふことになる、根本的に限度が安いわけではない、殆ど原料が安いから多少はよいでせうけれども、さう限度が安いわけではないと思ひます。

○ 經營者の具體的對策

本日はこの前の續きで愈々經營者の具體的な對策について申上げて見たいと思ひます。

この前申上げました點を撮摘んで申上げますと、一つは日本に生産力を伴はない富が多い、この事實は生産力を伴はない富を一掃するといふことになる。何れにしても從來の富のバランスを非常に變更しなくてはならない。どうしても富の再分配を起す、富の再分配といふことがやり方によつてはデフレーションにもなるだらうし、インフレーションにもなるだらう。だから世人がインフレーションかデフレーションかといふ質問は全く見當違ひの質問であつて、やり方によればデフレーションになるし、それから逆に捨て、置けばインフレーションになる。けれどもインフレでもデフレでも結局行く所は富の再分配であつて、生産力のない富といふものは結局存在を許されない社會になつてをるのである。つまり富は生産力に一致すべき運命にあるに拘らず、現在の日本の富は生産力に一致してをらない、これが大きな問題である。

もう一つの問題は制度の問題でありまして、從來の日本の制度といふものは封建主義制である、何となれば世人は皆制度を人生の目的にしてをる、だから制度の或る重要なポイントに入ることが

人生の成功である。と考へる。その結果制度が非常な威嚴を持つて來て、人間よりも制度の方が偉くなつて來た、その爲に總て制度が人間を支配するやうになつて來た。人間が制度を支配するといふことはあり得なかつた、だから制度といふものが人間を壓倒していつでも一つの機械的なものになつて人間を支配して壓迫して來た、その壓迫して來た制度の機械的なものが遂に軍部官僚といふ形で現はれて來たのであつて、軍、官が非常に特有の軍官になつた。何となく政治意識のないものが生れたのも制度といふものを人間が人生の目的と考へた。それ故にジューエーが「ニュー・アイデア」といふ本の中で言つてをるやうに制度は單なる手段である。我々もジューエーの本を讀んで制度論といふものをさういふ風に解釋して全く制度はさういふものである。人間の目的でなくて、人間の手段である。それを人間は目的から手段に變へなければならぬ、それには非常に大きな變化が起つて來る。頭の切替は勿論であるけれども、人間と人間とのバランスが或は有機的關係が非常に大きな變化を來す、これを稱して革命といふのである。

從來の徳川幕府が明治維新になつたけれども、結局權力の中心が移動したに過ぎないのであつて、革命ではなかつた。革命といふのは制度を本當に逆轉しなくてはならぬのであるが、明治維新は徳川幕府が倒れて明治政府が出來たに過ぎない。本當の革命は行はれてをらなかつた、本當の革命は人類の解放である。その意味に於て日本にはまだ革命が行はれてをらなかつた、かういふ意味に於

て従來の社會は舊式社會であつて、これを新式な社會にしなければならぬといふ要請があつた。この革命的要請と富の再分配をしなければならぬといふ二つの要請が相寄つて日本に大きな變化が押寄せて來るといふことを申上げたのであります。

そこでその變化がどういふ形になつて現はれるのであるか、これが第二の問題であつて、第三はそれに對する我々の對策といふことになるのであります。

○マーケットなき生産

先づ第一に私共が茲でポツダム宣言を十分よく研究される必要があると思ひます。ポツダム宣言の文章をよく讀んで見ますと、日本で今後やるべき産業といふものは米國や英國と競争的立場にある産業をやつてはいかない、かういふことが書いてある。その次には日本の産業は日本の國內を賄ふべき産業であつて、外國に乘出してランカシアをやり込めたり、或は米國の人絹業者を脅かすやうな産業をやつてはいけない、かういふことがポツダム宣言の中には謳つてあるのであります。これは觀方によると大したことはない、それでもよいぢやないか、かういふ考へで皆さんはおいでになつたかも知れませんが、これは非常に大きな問題であります。日本の産業が日本國內だけの産

業でなければならぬ、外國と太刀打するやうな産業であつてはならぬ、さういふ風なことをポツダム宣言が云つてゐる。

なぜさういふことを言ふかと申しますと、原始産業でない限りに於きまして必ず多量生産を必要とするのであります。殊にそれは機械を利用するところの多量生産が必ず必要になつて來るのであります。機械を利用するところの多量生産は必ずマーケットが世界的でなければならぬ仕事であります。殊に戦後の疲弊した日本だけを相手にした小さなマーケットを相手にして多量生産をするといふことは不可能であります。多量生産が出來ないといふことは機械工業でないのであります。多量生産でなく機械的な工業でないものは實際にやつて見て引合はないのであります。これを實際にやつて見ますと今日あるところの材料を使つて鍋、釜、電氣コンロを製造してをります。一番初めやつた方はよいかも知れませんが、二度、三度續いてやられる方があるならば一遍に過剰生産になつてしまふのであります。早くやつて引退らう、かういふ氣持で當業者は製造してをるに相違ないと考へるのであります。

なぜかと言へば、日本國民だけの消費能力では幾ら日本に炭がない、コンロを日本人がよく使ふと言つてもそこに自ら制限があります。日本がもしも電氣コンロを作る會社を立て、それで以て巧くやつて行ける爲には必ず米國のウエスティング・ハウスを向ふに廻して世界の市場を争ふといふ

ことが許されなければさういふことは不可能であります。

ところがポツダム宣言は完全にそれを否定してをるのであります。さうすれば日本は今後決して大規模な工業はやつて行けないといふことは明かであります。工業がやつて行けないといふ前提の下に日本の経済を考へるといふことになりまますならば、我々は戦争以前の状態に遷るといふ漫然たる考へ方は成立たないといふことになりまます。

假令復興しても戦争前の日本と非常に違つた経済形態でなければ駄目である、かういふ考へ方が起つて来るのぢやないかと思ひます。よく漫然と日本は専業をやれば何でもよいのである。マーケットなどは考へないといふ人が多いのであります。例へば日本は今までずつと見まして、株式市場を見ても分りますやうに、日本の市場だけを相手にした會社といふものは繁昌しない、その會社の株といふものは上つてないのであります。

例へば日本のセメントは國內需要だけでありましたから、國內需要だけを相手にしたセメント工業は備からなかつた、それは淺野セメントを御覽になつても分るのであります。味の素の如きは海外に輸出されてをつた、海外の輸出が多くて備かつたといふことを言つてをるのであります。日本の需要だけを充す工業はセメント工業に於て見るが如く非常に振はなかつたのであります。日本の家具は輸出されてをらない、だから日本の家具屋さんで大いに成功したといふ例を聞かないので

あります。

産業といふものは外國へどん／＼賣出すものでないと産業として成立たないのであります、殊に工業として成立たないのであります。それにも拘らずポツダム宣言を讀みますと、日本の産業は日本の國民の最低生活を支えるに足るところの産業でなければならぬとあります。これは眞大なる文章であります、にも拘らずこの文章を本當に問題にしたところの論説を私は新聞紙上に於てすらも見たことがないのであります。日本人はその點に於て或る程度考へてをる方があるかも知れませんが、けれども、どうも考へてをる人が少かつたのぢやないかと思ひます。ポツダム宣言の忠實なる履行が日本の今後の國是ですから日本の経済は餘程變らなければならぬと思ひます。世人は今までの間違つた富も全部一掃する、そこへ今言つたやうなデモクラシーの制度を作る、これだけは確かに出来るし、又マツクアーサー司令部の手によつて着々實行されると思ひますが、さういふ状態を呈した後にどうなるかといふことを考へて見なければならぬ。今の都會に集まつた方々は大概戦前の夢を見て戦争は濟んだ、一つ仕事をしようぢやないかと前の仕事をやつた考へが頭の中にちら付いて離れない、重工業であれば芝浦製作所、輕工業であれば鐘紡、あゝいふことをやらうといふことをお考へになるかも知れませんが、これは餘程考へ方をかへなければならぬと思ふ。

○分業の破壊

それからもう一つの問題になるのは、日本で今仕事をやるとしても出来ない大きな原因は言ふまでもなく分業の破壊といふことでもあります。分業の破壊といふことは非常に大きな出来事でありまして、恐らく考へられない程の問題であります。なぜさういふ風に我々が考へるかと申しますと、経済的分業組織といふのでありますが、これが一朝一夕に出来ないものでありまして、人間が作つたのではない、歴史的に段々發達して來たものであります。この發達したところの分業といふものがこれはいつの場合に於ても平和産業として或は平和的な經濟制度として必ず成立すべきものであります、これは有機的なものでありまして、非常に細胞に分れて來るのであります。全部プライアテイあるものが今までの原始産業といふものが戦争する爲だといふので以て漸次段々壓縮されまして軍需工業といふ極めて簡單なものに壓縮されてしまふ、その軍需工業といふものがお陀佛になつてしまつたのでありますから、結局軍需工業を通じてプライアテイなる有機的な團體がなくなつてしまつたのであります。なくなつても作ればよいぢやないかといふことになりませんが、作るといふことになれば先づ第一歩から始めなければならぬ。プライアテイのあるものであるから、あれがあれば

こつちがない、こつちがあればあつちがないといふやうな困難がありまして、これが全部出揃ふ爲には五年、十年、二十年を要して、歴史的な大きな流れを要すべきものでありまして、簡単にやることは出来ないものであります。

その分業の破壊されたといふことを知つてゐる人が非常な少い、この點が私達は缺陷だと思ひます。

單に戦争が濟んだからとか戦争中に破壊が行はれたけれどもといふ考へ方ではなくて、分業組織がなくなつてしまつた。よく軍需産業の人々が轉換すると言つて看板を塗り替へてやつて見たところでやる仕事といふものは兎に角分業がないのでありますから、何も出来ない、假令轉換して見ましても海外の市場がないのでありますから、直ぐオーヴァー・プロダクションになる傾向があります。

○原料拂底

それから尙ほ考へなければならぬのは、日本のやうな國の場合原料であります、日本は原料がない、日本が更に領土の分割によつて原料がなくなつてしまつたのであります。原料を獲得しようと

思へば相手の原料は貰へないといふ状態でありまして、原料のないといふことは今後の日本の機構には禍ひをするものだと思ひます。そこへ持つて来て今の凡ゆる生産設備が普通の破壊ではない、殆ど完全に近いまでに生産の設備が破壊されてしまつてをるのでありますから、かういふ風なことを考へて見ますと日本の經濟復は與革命が行はれたに致しまして大變革の後に於ての經濟復興は容易に起り得ない状態にあると思ひます。これを世人は簡単に經濟復興が起るものだ、罷果大震災の時に大震災が起つたけれども、三年か五年で元のやうになつた、又今度の戦争の後に於ても元のやうになり得ると考へてをる、その結果割合に呑氣に考へてをる。又敗戦といふ事實を重大視しろと言ふやうな方々もなぞ重大視しなければならぬかといふことを少しも説明されないであります。私は先づ第一に敗戦によつて日本が世界に工業を通じて活躍出来なくなつたといふことと、日本の復興といふものは容易ならざる困難を持つてをるものであつて、極度に言へば不可能であると思は考へてをるのであります。

復興の困難といふことを我々は改めて茲に考へ直さなければいかぬのであつて、簡単に元のやうになるとは思へないし、又元のやうには復興出来ないのぢやないかといふ考へを痛切に持つてをる者であります。

そこで問題はかういふ風に成行く運命にあらうか、かういふ問題でありまして、私共は現在先づ

問題なのは原料の問題であります。新聞によると外國から原料が來たらよいとか來るだらうと言つてをりますけれども、そんなものは非常に備かなものであつて、今後原料の確保といふことになると日本は非常に困難を來すと思ひます。どうすればよいか、原料を獲得しようと思つてもなか／＼獲得出来ないし、復興もなか／＼困難であるからさういふことをやつてをると行詰つて來る、色々な仕事をやつた方々が没落してしまふ。幾ら努力して仕事をやつても巧く行かない、仕事をやらぬ人は食ひ込んでしまつてなくなる、結局皆段々ルンペンの状況に追ひ込まれて來まして、インフレかデフレで今までの財産がなくなつてしまふ。

一方に於ては悪性インフレで財産がなくなつて行く、而も復興は非常に困難である、かういふ状態に追ひ込まれて行くのぢやないかと思ふ。賣買してをる者は皆ルンペンになつて來る、ルンペンになつた者が都會生活が出来ないから都會から地方に行く、地方に行つて或は炭坑の労働者になつて石炭を掘るとか或る者は百姓の下働きになつて慣れない田圃に入つて稻を植ゑる、かういふ風に漸次日本の人口の組織が變つて來る、一言で言へば原始的な生産物を造るに都合の好いところの組織に變つて來るのぢやないかと思ひます。

これによつて日本が消耗が少くなつてそれに代つて生産が多くなる、原始的な生産物が段々多くなつて來るのぢやないか。今日の人口の組織、人口の構成から行きますと、日本は原料がないにも

拘らず原料を實際に遣るところの労働人口は非常に少い、消費の部に當るところの人口が非常に多い、例へば米や野菜を作るとか魚を捕るとか石炭を掘出すとか原始的な生産物を作るに都合の好い人口の構成が戦後段々變化して行かなければならない。

今日のやうな人口の仕組ではどうも原料のない日本に於てはやつて行かれない。

勿論米國がうんと原料を日本に供給してくれれば別でありますが、今日の日本の貧弱なる原料を以てしてはどうしても原料獲得の爲に漸次原始状態に還元される。なぜかと言へば、大都會にまつた人口が焼けて地方へ行つた方もありますが、大部分地方へ行つた、それは農業者として行つたのではなくて、都會の延長ですから、都會人が日本の總人口の七割を占めてを、二、三割が辛うじて本當の原始産業に携つてをる。あとは原始産業の上に乗掛つてをる寄生蟲であります。外國貿易が盛で向ふから原料を持つて來るといふのはよいけれども、輸出貿易も疎すつば行はれないといふ状態に於て日本の人口のコンストラクションが四割が原始生産物を製造してをるといふのでは迎もやつて行けない。

我々の一番必要な物は原始生産物に決まつてをるからやつて行けない、今の人口構成を以てするならば日本は原料の不足によつて非常な困難に逢着する、どうしても日本の人口のコンストラクションは變つて來なければならぬものだ、結局三割位が寄生蟲であつて、七割位が原始産業に携はる

人間にならなければならぬ。

○都會凋落と農村繁榮

戦争が済んで東久通宮が皆農民になれと言はれた、それに或る程度賛成した人もあるし、賛成しない人もある、農民になれといふ言葉を原始産業に向つて或る程度還元されなければ駄目だといふ風に我々は理解をする場合には東久通宮の言はれる言葉は妥當だと思ひます。かういふ風に原料の部面から私共はどうしても考へるのであります。そこでその結果として都會といふ現象が段々否定されて來ると思ふ。

昔は大名と娯樂とマーケットによつて都會が成立つたのでやりますが、大名は今後は出來つこないでありますから、そこで明治以後になつてから都會の發達によつて大工業の事務所が都會に集まつた、さういふやうなことで以て結局大工業組織が大都會を作り上げたといふことが言へると思ひます。

ところで今言つたやうに大工業制度が否定されると假定するならば必ずそこに都會的現象も成立たないといふことが言へると思ひます。或は東京のやうに政治の中心點をなすものは政治の中心と

いふ意味に於て成立つかも知れませんが、都會は復興する餘地がないから工業は興らぬ、興つても潰れてしまふから工業のない所に都會なし、かういふ現象から行きまして都會が段々復興は出来ないし、段々荒れ果てしまつて都會があつても非常に小さなものになる、都會はだん／＼凋落して行くのではないか、かういふ風な氣がするのであります。

さうして一方に於て現に農村が漸次頭を上げて来る傾向がある、これは都會に居たたまれよい人が農村に行つて何かやろう、都會を去つて農村に行つた方が仕事がいし巧く出来るのだ、かういふ氣持を持つ人が最近多くなつた。これは今後一、二年経つて見たら皆さんが痛切に感じられるだらうと思ふ。もう暫く経つたら仕事は都會では出来ない、農村に行かなければ駄目だ、かういふ考へが濃厚に起るのぢやないかと思ひます。

大工業はやらうと言つても出来ない、農村に行けば小麦粉に對するところの設備があるからうどん粉の工場。作つて小麦粉にする、農村で豚を飼つて成べく早く罐詰にするとか、硫安や石灰石の肥料會社が出来るといふやうなわけで結局農村が段々工業化されて農村だか或る意味に於ける小さな工場だか分らぬやうな状況に漸次進んで行く傾向があるのぢやないかと思ひます。

さういふ風な傾向になつて農村の性格が非常に變つたものになつて来る、從來の農村と考へてをれば非常な間違ひが起るのぢやないかと思ひます。下手な對策よりも自然に發生するところの力の

方が大きいのでありまして、私共はさういふ必然性を見るのであります。

だから大工業制度からすれば農村工業かどちらかに進むべきものぢやないか。ところが今までの日本の農村は非常に封建主義的な農村でありまして、小作制度が今度は廢されました自作農になる。自作農は農家をして獨立の經營者たらしめるものであります。農家獨立の經營者になれば自分のことは可愛いものでありますから、成べく自分の畑をよく耕したい、トラクターを買つて來て盛に耕してやらうといふ經營者の氣持に段々農家もなつて来る。農家は今後さういふ經營者的氣持になればそれを通じて漸次それが一つの工業の方に發達する傾向も考へられるものぢやないかと思ひます。

さういふ風なことになると農村は一つの大きな原始工業といふやうな状態にだん／＼流れて行く傾向がある、それによつて辛うじて日本國民の最低生活を支へるところの自給自足が幾分づつ出来るやうになるのぢやないかと思ひます。ですから先づ第一にかういふ角度で以て戦後の經濟復興が起る、戦後の經濟復興を日本が獨力でやるといふことになれば、都會がさびれて農村が工業といふ形で發達することになりますから、從來のやうな都會自體を考へることは不可能に陥つて来るのぢやないか、かういふ氣がします。隨て今まで軍需工業をやられた方が都會で一族上げようと思つて努力をされても、その努力は一時的に手持品がある中はよいけれども、その中に出来るものも出来

なくなると思ひます。實に皆が何かやらうとも擧げてをる、訊いて見ると何をやつてよいか分らぬけれども、も擧げてをる方が多いのであります。かういふ大きな必然性にも擧げても出來ないことは出來ない、大工業が出來なければ田舎に行つて經濟を助けるやうにすればよい、幸ひに田舎には澤山金があつて金融は非常に良い、田舎で一才仕事をするといいことはよい、都會で二萬圓の會社を作るなら田舎で一萬圓の會社を作つて農業の生産物を殖やす、出來た生産物を最もよく處理する、さういふ風なことを考へられて行かなければ嘘である。

依然として馬鹿の一つ覚えで都會でなければ事業が出來ない、日本が敗戦した限りに於てはこれは駄目ぢやないかといふ氣がするのであります。人によるとそれは極端な考へだ、何とかなるだらうといふやうな考へを抱くといふのですが、私共はどう考へても分らぬのであります。例へば日本に今トラックがない、交通機關が悪い、かう言つてをるのでありますが、消耗は戦時中より戦後の方が酷いのであります、この消耗は深刻である、電車はぼろ／＼である、電車が出來ると言つてをりますが、決して出來はせぬと思ふ。

皆さんの考へ方はもう戦争が終つたからこれからやれるといふ考へ方である、私はこれから悪くなるだらうと思ふ。消耗といふものはこれからです、何となれば皆さんは何も生産に携らない、皆遊んでをる、さういふ僕も遊んでをる、皆が生産しないで食つてをる。これから電車が修繕される

といふが、修繕なんかするわけがない、大正三年に出來た電車が今がた／＼動いてをるやうな状態でありまして、どうも交通問題から見ても相當な問題が起ると思ひます。さういふやうなわけで今日の情勢から見ますと、都會で一旗上げようといふ事業家はどうかと思ふ、餘程お考への餘地があるのぢやないかと思ひます。

○光は何處に

それならば一體我々は何を期待したらよいか、かういふ問題が次に起つて來るのであります。第一に成べく地方へお出でになつて地方の事情に適した地方の原始産業を助けるやうな仕事を先づたさることが一番必要だと思ひますが、更に積極的に考へるならば外國から色々な物を買つて來ることが必要である。外國から買つて來たら日本から送り出すやうな事業を始めなければいかぬと思ふ、輸出貿易の足しになる仕事をしなければいかぬと思ひます。だから農村を工業化することが一つと、一つは輸出産業をやらなければならぬ、かう思ひます。ところが先程言つたやうな理由で以て輸出産業は相當の制約を受ける、隨て重複生産は相成らぬ、分業生産でなければいかぬ、紡績も人絹も日本としては大して出來ないといふことは當然考へられるし、やつて見てもそんな状態では有

効ではない。そこで問題はどうか風なことをやつたらよいか、現在のやうな状態で紡績を日本がやりましたも、日本は十圓で米國の紡績は一圓しか掛らぬ、一圓と十圓の交換なら向ふのものを買つてもよいといふことになりませうから、米國の紡績生産物を買つた方がよいといふことになる、日本でやつてをうた世界製品を止めて外國から買つて他のもので拂つたらよい。

○工藝品の輸出

私は日本でやるべき仕事は手工業品の輸出であると思ひます、手工業品の最も發達した形態は工藝品を製造するといふことであります。工藝品の製造を徹底的にやるといふことが日本の一つの輸出産業として唯一の残された工藝的技術品の製作よりないと思ふ。例へば生糸は戦時中に日本人が行きまして支那の山繭を作るやうに努力して、支那の山繭は質が良くて日本の繭の二三倍の大きさを持つてをる、この勢で行くと日本の生糸は壓倒されてしまふといふことを言つてをうた。昨日の新聞を見るとイタリーでも支那でも盛に生糸の生産をやつてをるといふことであります。日本の生糸工業は樂觀を許さなまいと思ふのであります、もしも生糸工業が行詰つて來ると假定致しますならば、生糸すらも日本では駄目だ、外國から輸入しなければならぬといふこ

とになる、外國から輸入してもよいから生糸を織物にする、織物にして輸出しては引合はないから、その上に西陣織にするとか友禪織にするとかしてそれを外國に賣出す。かういふことにするならば非常に高く賣れる。スイスの時計みたやうなもので與へられた原料の何十倍、何百倍の高いものに賣れるのでありますから。

原料を生かすといふ點に於ては美術工藝品の製作以外に道がない、幸にして日本は工藝美術品の製作には多年熟練してをるのでありますから、これをやれば案外よい。

私は本當を言ふと盛に工藝美術品を宣傳したところが憲兵が來てお前は淋しいことを言ふと言ふ、淋しくない、あなた方は今の日本の工藝美術品をそんな風に考へるけれども、これを世界的に考へると日本の工藝美術品は大きなものである。外國に行つて見た人は分る、世界で藝術を製造する所はあるけれども、支那の漆工とか陶器とか言つたところで限られたものであつて、本當の工藝品を輸出するのは日本である。而も非常に儲かるものである。ただ技術を練りさへすれば案外の利得がある。だからスイスの時計を眞似してやるよりも日本が各地に於て製造したところの工藝品を最も良くしてこれを外國に輸出するならば案外大きな利益を得られる。例へば戦前に於ける玩具、人形の輸出類は相當輸出の金額に於ても大きなものであつたのであります。玩具、人形を今後徹底的にやる必要がある。けれども外國ではなぜやらないかと言ふと、彼は細かいことはやれない、

といふのは多量生産に慣れた國民は手工業的な生産は相反すると見えてやれないのであります。キヤリオールを使つて石だつてがた／＼潰す、あゝいふ國民に僅かな手工業なんて馬鹿々々しくてやれない、敗戦した日本の國なんか持つて来いである。況や工藝美術品を製造するに慣れてをる性格を持つてをるから、この民族性を生かすことが必要である。敗戦國の中では日本の如く工藝的に認められた國はないのでありますから、日本人がかういふ眞實の上に立つて日本の長所を認めて生かさないか、日本の指導者は日本の國民に向つてかういふことを言つてやらぬのか、日本は競争に負けたけれども、日本はかういふ方面ならば復興が出来る、従來のやうに馬鹿の一つ覚えで戦前の状態の大工業を夢見てをるから日本の復興は困難であるけれども、大工業を夢見ることが止めてしまつて、全く新しい立場に立つて日本らしい日本を築け、農業を工業化することもよいけれども、同時に工藝美術品を最もうんと造つて海外に高く賣りなさい、米國の如きは生活程度が高いから日用品を安く評價して工藝品を高く評價しますこれは注目すべきことである。

ですからかういふことをやれといふことをなぜ日本の爲政者が本當に眞實の上に立つて國民に指導してやらないだらうか、私はそれが甚だ遺憾であります。ただ慢然と敗戦といふものは重大であるといふことを覺悟しろと言つたところで馬鹿にも分ることありますから、どうしたらよいか、日本の工藝美術品をうんと輸出して富み榮えてから改めて日本が大工業をやるならやつたらよい、

過渡的な時に於て私は是非日本のさういふ風なことを考へられる必要があるのぢやないか、ただ一番悪いことは今度の復興といふものが簡単に戦前と同じやうな經濟形態に復興の道はないといふ固まつた考へ方が現在間違つてをるのぢやないか、私はかういふ風に考へるのであります。どうしても我々が今後行くべき道は農村の工業化と工藝品の輸出である、それ以外に何が出来るか、日本の國だけを賄へる味噌とか醤油とかを製造するといふでせうが、味噌、醤油を幾ら製造しても今後さういふやうな國內だけの需要を充すものでは大したものはやれないし、さういふ仕事の原料が規定されてをるのでありますから、仕事の分量は自ら決まつてをるのぢやないかといふ氣がするのであります。

ですから是非皆さんとしてもその點に於ても十分に御研究を願ひまして、私の今申しましたことは可なり色々な點から問題が起ると思ひますから、是非十分反對をして戴きたい、反對をして戴けば又私の考へ方も述べましてこの案を練られると思ひます。

私はどう考へても第一に日本から間違つた富が一掃されることは必要である、その次に制度の變化が來ることも必至である。けれどもさうした後の状態は衰弱状態を來す、そんな衰弱状態を豫想して皆さんが仕事を始めれば失敗をするに決まつてをるから、都會で仕事をすることは止められて、その衰弱は主として都會に來るから、都會生活を脱せられて地方に於て皆さん

が一族上げられる、或は輸出に向くところの工藝美術品の製作に従事されることが一番妥當な行き道である、かういふのが私の意見であります。さういふことについて反對をして置くならば非常に幸ひだと思ひます。

○質 疑 應 答

大館堯壽(經博) 工藝品に向ふ、それより全くないと思ふのですが、私の考へる所では大體アメリカは軍閥を滅ぼして平和的にやればよいのだから、この所三年や四年では直ぐさうならないと思ひますけれども、追々には私の考へでは何でも終ひには許すだらうと思ひます。これは間違つてゐるかも知れませんが、アメリカの心持では私は初めからかう思つたのです。最近向ふの兵隊の紳士的な態度に驚いたのですか、これが普通で日本の今までの軍部なんといふものはなつてゐないので、向ふでは平和的の國民であればよいのですから……。なぜいけないかと言ふと、今日の新聞に出てをるやうに、十六年の七月二日にちゃんと戦争することを決めて置きながらそれで嘘付いてをるといふ風に見てをる、それであゝいふ風に人を騙し撃をした。これは我々が想像する以上にアメリカ人は怒つてをる、だから東久邇理大臣官が廣島と眞珠灣を両方で忘れ

ると言はれたことはアメリカ人は怪しからぬと言つてをる。向ふは軍部が解體しない中は止さない、どういふ風にしたならば世界の平和が樹立されるだらうといふことに非常にアメリカは重きを置いてをりますから、それをするには自分勝手の事をしてはいけない。日本が眞面目に改革すべきことを改革してやつて行けばよいと思ふ。

勝田 第一ポツダム宣言は米國だけで書かれたものではないのでありまして、聯合國が書いたものであつて、その宣言を履行する爲に賠償金を課するが、その程度は本當に日本を壓迫する程度しか課さない、だから賠償金の價格は多いと思ひませんが、日本の工業を發展させない、競争を許さないから、同じ市場で競争するといふことは不可能である。又ランカシアの貿易と日本の貿易の競争が許されるかどうか、玩具だつて人形だつて日本が今まで輸出したもので工藝美術品的なものが多いが、日用品の輸出はそんなに進んでゐなかつたのぢやないか。今後日本經濟の行くべき途としては、成べく日本の手工業を生かしてそれを精密工業化するより方法がないぢやないか。かういふやうな意見を申上げたのです。結局日本の工業が世界化されることは好ましくないのぢやないかと思ふ。日本の軍閥その他が勢力を盛り返す根本の原因は日本の工業が世界的なものであつてはいかぬのぢやないですか。

問 實際問題として財産税について先生の御意見を伺ひたいと思ひます。

六〇

答 財産税といふものは第一次歐洲戦争後のドイツにありまして、僕等がその際にドイツにゐた時に下宿屋の小母さんが政府は泥棒だと言ふ、どういふ譯だと訊いたところが私は非常に大きな財産を持つてをつた、ところが戦後に於て財産税を拂ふ爲に現金がないから賣つて拂つてをつたらなくなつてしまつた、不動産の價格が非常に暴落したといふのです。日本で財産税を課けるといふことを言つたのは無産黨が言つたのか或はさういふ目的で大藏省あたりが考へたのか不明です、もしも財産税を課けて軍需會社を補償するとなつたら怪しからぬ、併しさういふものは實行出来ないのぢやないかと思ひます。實際あれが二割となると相當の金額であつて恐らく金持はがさつと行く、それだけの現金がないから賣つて拂ふより仕方がない、どうも二割は餘りに大き過ぎるのぢやないかと思ひます、パニツタ的なものが来る、一種のデフレ政策であつて、一寸見るとインフレ防止のやうになるけれども、逆にインフレ防止にならないでインフレを刺戟するやうなことになるはしないかと思ふ。(終)

社會は發展過程なり

(「人間性經濟學」勝田貞次著より)

經濟社會は、人間性の發展の線に沿ふ所の一つの發展的なものであると云へる。従て亦經濟學にしても、決して、自然科学では無いのであつて、經濟社會の發展を反映する所の歴史であり、文化史でなければならぬ。興へられたものを、自然現象と同様に、發展性の無いものと見て、その儘に、それを興へられたる材料として、取扱ふことは、經濟學としては、許されない。人間性の發展、従て亦、經濟社會の發展、従て亦、經濟學自體の發展を、看過した所に、アダム・スミスからマルクスに至る間の經濟學的誤謬があるのでは無いか。ベーコンは、嘗て、自然は、發展せず、と云つたが、同時に、又「自然以外のものは發展する」と云ふことが云へる。即ち、この世の中には、發展しない自然と、發展する文化とがある譯であつて、人間の社會は、この後者に屬する。即ち、それは、一つの存在では無くて、動であり、變化であり、發展である。自然は、興へられたものであるが、文化は興へられたものではない。常に發展して熄まないところの發展過程それ自體である。故に、斯る人間社會を考へる場合に於ては、假令、物的である經濟社會を論ずる場合ですらも、一

六一

つの發展過程として、それを見なくてはならない。そこに、經濟社會に於ける向上と、教化との必要を見るのである。發展過程に於ては、過去は、決して、死物では無くて、現在と運命的に關係してゐるものであるから、自由に、過去を振切つて、勝手に發展をすると云ふことは出来ない。創造的進化として、飽く迄も、過去を重んじて、自發自展の線に沿つて、個性に立脚して、その向上、教化並に發展を促進する必要がある。統制經濟の立場があるのである。

然らば、それを、具體的に言へば、どう言ふ事になるか。それは、即ち、今迄の商業と金融に立脚せる處の、從て亦、思惑と不勞所得に立脚せる處の資本主義をば、分業と工業とに立脚した處の、從て又、勞力所得と創造報酬とに立脚した處の資本主義に迄、發展せしむることに他ならない。資本を否定したり、利潤を否定したりすることは、資本と利潤を、無軌道的に放任するのと同じに、許さる可きことではないのである。即ち、自由主義經濟にも、一定の限界のある如く、統制經濟にも、一定の限界がある譯である。その限界を越えると云ふことは、要するに、資本と利潤の本質を理解せず、經濟學が人間性の發展に即した文化發展史であることを理解せざる結果だ、と云ふの外は無き。

製本控

973	函	346	號	年	月	日
書名 清和會講演 (中2年)						
著者						
受入 21年 4月 9日						
備考						

何第 號

振替東京 一七四
電話九段(33) 一三五〇・四六二
日本出版協會會員番號A 二一四〇〇六番

部 所 造 美 會 (稅 込)
川町三七



六二

つの發展過程として、それを見なくてはならない。そこに、經濟社會に於ける向上と、教化との必要を見るのである。發展過程に於ては、過去は、決して、死物では無くて、現在と運命的に關係してゐるものであるから、自由に、過去を振切つて、勝手に發展をすると云ふことは出来ない。創造的進化として、飽く迄も、過去を重んじて、自發自展の線に沿つて、個性に立脚して、その向上、教化並に發展を促進する必要がある。統制經濟の立場があるのである。

然らば、それを、具體的に言へば、どう言ふ事になるか。それは、即ち、今迄の商業と金融に立脚せる處の、從て亦、思惑と不勞所得に立脚せる處の資本主義をば、分業と工業とに立脚した處の、從て又、勞力所得と創造報酬とに立脚した處の資本主義に迄、發展せしむることに他ならない。資本を否定したり、利潤を否定したりすることは、資本と利潤を、無軌道的に放任するのと同じに、許さる可きことではないのである。即ち、自由主義經濟にも、一定の限界のある如く、統制經濟にも、一定の限界がある譯である。その限界を越えると云ふことは、要するに、資本と利潤の本質を理解せず、經濟學が人間性の發展に即した文化發展史であることを理解せざる結果だ、と云ふの外は無く。

昭和二十一年二月二十日 印刷
昭和二十一年二月廿五日 發行

再建日本・經營者具體策の研究
定價金參圓(税込)

不許複製

編輯兼發行者

清話會

著作權

印刷者

代表者 山川雅美
長 宗 泰 造

所有

印刷所

厚德社印刷所
東京都小石川區高田豐川町三七

發行所

清話會出版部

東京都小石川區關口町二〇〇
振替東京一七四、四四三番
電話九段(33)一三五〇・四六二二番
一五〇五・一五〇六番
日本出版協會會員番號A二一四〇〇五



973
346

終